



山行報告

★鉄砲木の頭(9月3日)

参加者 会員(障害者3名、健常者5名)

今回、理事長の代理としてリーダーを務めることになった。アルプに入会して1年にも満たないため不安一杯の山行。どうなることやら。

前日の雨も夕方には回復し朝からスッキリとした晴れ模様。バスも満席で予定時刻に発車。所々渋滞しながら富士吉田の市内へ。バスから富士山が見えているが、その西側には雲が湧いてきている。少々怪しい雲行き。バスはおよそ20分遅れで榎岳荘前に到着。トイレ等を済ませ皆で自己紹介。皆ニコニコで元気な様子。簡単なコース説明と事前に調べたうんちくを紹介して出発。

鉄砲木の頭は神奈川県側からの呼び方で山梨県側は明神山と呼ぶそうで、地図も併記や明神山だけとの記載もある。鉄砲木の名前の由来は、その昔、この辺りは良質の木が取れたそうで、これを運ぶ際に沢の水を堰き止めてから堰を切って鉄砲水のようにして木を流したそうです。この鉄砲水の水を木と読み間違えて鉄砲木となったそうです。

暫く車道を行き、ハイキングコースに入る。比較的緩やかな登りの樹林帯で風が心地よい。だが、足元は道の中央に深い溝ができていて、また、火山灰?のような砂地の混ざった土で以外と滑る。道端にいくつかの花が咲いているがさっぱり分からない。皆が後で理事長に調べてもらえというので、とりあえず写真に収めてお

く。もうすぐパノラマ台と思われるところで富士山がススキ越しに姿を見せる。やっぱり富士山の雄姿は素晴らしく、足を止めて眺めてしまう。



パノラマ台から見た富士山と山中湖

皆順調に登り、パノラマ台に到着。一般道脇のパーキングもあるので、10数台の車が止まり多くの観光客が景色を楽しんでいる。富士山から山中湖が一望でき、絵ハガキになるような最高の景色。傍にいたカメラマンらしい人に集合写真を撮っていただく。一休みして山頂を目指す。



パノラマ台にて

景色は樹林帯から一転してススキ等のカヤトに囲まれて少しずつ高度を稼ぐ。あいかわらず足元は大きな溝があり、今度は段差の大きい階段。しかもところどころ壊れたり、土が流され木だけが残り歩き難い。ペースもやや落ちるが皆で助け合って登っていく。サブリーダーのNさんが適宜サポートの指示を出して下さるのでとても頼もしい。SYさんも前後のサポートに適宜動いて下さる。皆協力的で有難い。後ろを振り返ると、ススキの絨毯と山中湖の眺望が素晴らしい。



カヤトに覆われた山道を歩く

出発は遅れたものの当初予定時刻に山頂に到着。残念ながら富士山は既に雲に隠れてしまっていた。メンバーの中に妖怪あめふらしが居るらしい（私です！）。ここは山中湖諏訪神社の奥宮で祠が立っている。学生と思われる団体さんがいるが、軽装の人が多い。三国峠からくると20分程度なので、そちらから来たのでしょう。Oさんが茹落花生を配ってくれた。大粒でとてもおいしい。Kさんと帰りのビールのおつまみにしようと残り全部を戴いた。学生さんは下山して山頂は貸し切り状態となったが、ほどなくして、また団体が到着。こちらは年齢層が高い。東京ハイキング協会らしい。箆坂峠から来たとの事。その方に集合写真を撮っていた。

当初出発前に、13時よりも出発が遅れる場合は三国峠から下ることとしてたが、Sさん親子も元気で大丈夫との事なので、Nさんと相談

して切通峠経由で下ることにする。



鉄砲木の頭にて

下りは再び樹林帯となる。しばらくは広めの歩きやすい道だったが、段々と木の根が多く歩き難い山道となる。Sさんも慎重に、しかし足を止めることなく着実に下る。途中にトリカブトがあったらしく、後方の女性メンバーで話が盛り上がっていた。自分も話題にされていたようで良くわからないもの楽しそうだった。

なかなか切通峠に着かないが、地図上ではあと少しなので頑張り、都合、1時間以上歩いてしまった。Sさんも緊張していた筈なので一旦小休止を入れても良かったかもしれない。反省。切通峠自体はそれほどひらけた場所ではない。ここから丹沢湖方面に抜ける東海自然歩道があるが通行止めの表示が出ていた。



緑の中を下山する

事前の調べで、ここから平野に抜ける道は荒れていておすすめできないとの情報があったので注意していたが、心配するほどの荒れもなく順調に歩けた。サポートを入れ替えNさん

に先頭を歩いてもらい私はAさんをサポート。Aさんがしきりに歌えとすすめてくる。アカペラで歌う勇気も無く羞恥心が勝り、歌えませんでした。Aさんごめんなさい。アカペラで歌うのは理事長に任せたい。

切通峠から15分程度で車道に出た。ラグビーグラウンドやテニスコートが沢山あり、多くの学生が合宿している。うちの息子もここでテニス合宿をしたようだ。県道に出る前にテーブルとベンチがあったので暫く休憩。少し時間があるので温泉に行くか相談したが、そこまでの余裕は無いのでこのベンチでゆっくりして平野へ出た。



県道出合のベンチで休憩

平野のコンビニでお酒を調達し平野から富

★加波山(10月1日)

参加者 会員(障害者3名、健常者10名)
会員外(健常者1名)

つくばエクスプレスでつくば駅まで行き、そこからつくバス(北部シャトルバス)で筑波山口まで行く。インターネットで時刻表を探したが、このつくバスは、時刻表がNot Foundで見ることができないため、筑波山シャトルバスで沼田まで行き、タクシー会社に沼田まで来てもらう予定だったが、Iさんがつくバスがある

土山駅へ路線バスで移動。富士山駅では皆で吉田うどんを食べて高速バスで帰路についた。中央高速は大渋滞。2時間半遅れとなったが、バスではNさんがママさんとなってKさん持参のお酒をちびりと飲みつつ新宿に到着。バスでSYさんがアルプの人たちはいろいろな人達が居て仲が良くて楽しいとおしゃってたのが印象的でした。

今回初めてリーダーを務めさせてさせていただきましたが、本当に皆協力的で、リーダーらしい事は何もできなかったものの、おかげさまで皆無事に帰ってくることができました。どうもありがとうございました。

普段、何気なく参加させて貰ってますが、事前の準備や手配、行動中の気配り、帰ってからのレポート(これが結構面倒くさい)理事長のご苦勞が身に染みました。皆様も理事長に感謝しましょう。

記・写真：井上

コースタイム

岳荘前(10:40)…ハイキングコース入口(10:55)…パノラマ台(11:30-11:45)…鉄砲木の頭(12:30-13:05)…切通し(14:10-14:25)…車道(14:40)…県道出合(15:00)

ことを職員に聞いてくれて、乗り場に発車時刻を確認に行ってくれた。そのおかげで、5分早く、金額も安いつくバスに乗ることができた。Iさんに感謝です。

筑波山口からタクシーに乗って五合目近くまで行ってもらう。運転手さんは、超茨城弁で、「そうだっぺ〜」の調子で、気持ちよく話している。以前は、「渋谷のNHKさ勤めてたんだ〜」とのこと。

これ以上は無理というところで下ろしてもらう。他の2台は、ここまで上がってこなかったようだ。少し下から、みんなが歩いてくる。

声出しをして、出発する。この付近は御影石

(花崗岩)の産地でもある。五合目は石切場の隣でもある。少しコンクリートの道を登ると、登山道の入口がある。



展望のない、樹林帯を登っていく。少し登ると、沢の流れる六合目。さらに登ると山椒魚谷と書かれた七合目。沢に山椒魚がいたのだろうか？

登っていくと、次第に木々の間から青空が見えるようになる。コルが近づいていることが感じられる。



燕山とのコルは、加波山の肩のようなところでもある。色彩豊かな加波山神社の中宮御拝殿がある。加波山は、筑波山以上に信仰の山だそう。中宮御拝殿横の階段を登る。登っていくと親宮御本殿があり、次はたばこ神社。さらに中宮御本殿があり、山頂には本宮御本殿が建つ。山頂からは、西側に関東平野が見える。今日は暖かい日でもあり、遠くの山は見えなかった。

山頂で昼食を摂り、集合写真を撮ってから下

山にかかる。下山は、丸山經由一本杉峠に下る。樹林帯を下っていくと、発電風車が見えてくる。風車は2つある。最初の風車の手前には、「自由の楳」と説明書きされたモニュメントがある。



2つめの風車の上に丸山があると思ったが、登山道がなかった。登山道は山頂を通らず、トラバース気味に一本杉峠まで付けられている。風車の上空には、ハンググライダーが舞っていた。さらに2羽のトビが、争っている。縄張り争いなのだろうか？



一本杉峠で休憩し、林道を下る。もう林道なので、楽な道かと思ったら、大雨の時に土がながされたのだろう、岩がむき出しになっているところがたくさんあり、今日一番歩きにくいところだった。モトクロスのバイクのお兄さんが下っていったが、途中から引き返してきた。かなり大変だと思ったのだろう。

途中から道がいくつかに分かれているが、距離的に一番近いと思われるところに行くことにする。ただ、最初が少し登りだった。この登りがあるから、ガイドブックはこちらのコース

を書いていなかったのかも知れない。



途中でタクシーを呼ぶ。3台頼んだが、1台は少し遅れてくると言う。先に着いた人が、さらに上まで上がってもらうように頼み、早く下

★金峰山・端牆山(10月8日～9日)

参加者 会員(健常者5名、子ども1名)

☆10月8日

小淵沢駅で小海線に乗り換える。ボックス席に座っていた2人の男性の横に座る。関西から来た2人は、山の風景のすばらしさなどを話していたが、この路線がJRの中で日本最高地点を走っていることを知らなかった。最高地点の標識や野辺山駅が最も標高の高い地点にある駅であることを教えてあげる。



2人を見送り、我々は信濃川上駅で下車する。39年前友人と2人で甲武信ヶ岳に登ろうとしてこの駅に来たときは、ヒッチハイクで途中

った人が加波山神社で待つことにする。先に着いた1さんから電話があり、最後の1台は間違っていて筑波神社に行ってしまったらしい。かなり待ってようやくタクシーに乗ることができた。

筑波山口のバス停では、先に着いた5人が待っていてくれた。待ち時間を有効に使うのが、山仲間アルプの得意芸。Kさん持参の飲み物を飲みながら待つ。こんな時間がとても楽しいひとときだ。

記：網干

コースタイム

五合目(10:25)…加波山(11:50-12:35)…一本杉峠(14:00-14:20)…加波山神社(16:00)

まで行き、さらにヒッチハイクをして梓山まで行った。思い出のある駅だ。

予約したジャンボタクシーに乗って廻目平まで行く。山に詳しい運転手さんで、五郎山などの説明をしてくれる。

廻目平はフリークライミングのメッカのようなところ。すでにそこかしこで、フリークライミングを楽しむ人たちであふれていた。我々は、まずここで昼食を摂ってからスタートすることにする。

色づき始めた木々と、鋭い岩峰などを眺めながら林道を歩く。M君は、新しく買ってもらったカメラで、写真を撮ったり、ビデオ撮影をしたりしながら歩いている。



砂防堤の先で林道は終わり。丸太の橋を渡っ

て登山道に入る。いきなりの急登になる。カラマツ林の中を登り、順調に高度を稼いでいく。



登山道で休憩(Iさん撮影)

「もうすぐ森林限界だね」と言うと、「もう何回聞いたか」とM君。子どもは鋭い!



金峰山小屋からの夕景(右は八ヶ岳)

2,300mのピークを過ぎると目指す金峰山と金峰山小屋が見えた。小屋まではあと一登りだ。今日は雲が多く、樹林帯だったこともあり、あまり風景が見えなかったが、夕食後、霧が晴れ、雲海に浮かぶ八ヶ岳と夕景が見られた。外に出て、写真を撮る。



金峰山小屋で他の登山者と交流(Iさん撮影)

その後は、いつもながら、他のパーティーの人たちとの交流会。六つ星山の会のYさんを知っているパーティーと同じテーブルに付く。他の一期一会のパーティーとも歌の交流会が始まる。



星空と衛星(M君撮影)

暗くなってきたころ、外に出るとM君がカメラを構えていた。こんな暗いところでは写真が撮れないだろうと思っていたが、帰ってきてからお母さんが写真を送ってくれた。なんと、すばらしい星空の写真ではないか。岩の上にカメラを手で固定して撮ったと言うが、星の流れから見たら10分以上固定していたはず。M君の忍耐強さに感服です。



金峰山小屋と降り注ぐ星(M君撮影)



天の川(M君撮影)

☆10月9日

明け方、外に出てみると霧に包まれていて何も見えない。ただ、かすんだ月が見えたので、それほど厚い雲に覆われているわけではないだろうと思う。

朝食を摂り、トイレの温度計を見ると5℃をさしている。この時期としては比較的暖かい朝だ。霧も取れてきて視界が広がってきている。このまま晴れてほしいと願う。



金峰山小屋の前で出発準備 (Iさん撮影)

昨日、一緒に歌ったリーダーに挨拶をして出発する。登るにつれて雲が低くなり、ハケ岳が姿を現し始めた。南アルプスも見えるようになる。石巻から来たGさんは、目の前に広がる風景に感極まったようだ。



朝日に染まり雲海に浮かぶハケ岳

山頂に到着すると、それまで見えていたハケ岳、南アルプス、御岳、中央アルプス、北アルプスの後立山連峰の他に、富士山がどーんと構えている。岩に登ると、国師ヶ岳から甲武信ヶ岳に続く、奥秩父主脈縦走路が見える。これから行く瑞牆山は、低い位置だが、個性的な鋭い岩峰が連なる。

集合写真を撮り五丈岩に向かう。この間、M君は、岩の上にあった水たまりを前景にして富士山の写真を撮っていたのだ。写真を見ると、大きな池の向こうに富士山が見えるように見

える。水たまりにぐっと近づいて広角で撮ったことで撮れた写真だ。こんなアングルを見つけ出したM君に、私はものすごく感動する。これからもM君の写真は楽しみだ。



北岳（左端）から聖岳までの南アルプス

M君と一緒に五丈岩を登ってみるが、途中から足場が細かく急になったので、途中で引き返す。IさんとKさんも途中まで登っていた。



金峰山山頂からの富士山

五丈岩から先の稜線は、南アルプスやハケ岳を見ながら歩ける展望の山道だ。途中には、足場の狭い岩場や鎖場もあり、慎重に下っていく。千代ノ吹上は、岩壁となって切れ落ちている。



金峰山山頂にて

砂払ノ頭には、地元の学生だろうか大勢いた。

ここを過ぎると樹林帯となる。大日岩までは近そうでなかなか遠い。時間は、予定を30分ほどオーバーしている。このまま行くと予定のバスに乗れないため、大日岩に付いたときに相談し、ここから急いで下り、さらに端牆山に登ることにする。もし、間に合わない人がいた場合は、2パーティーに分かれることにする。



鎖場を下る

大日岩は、非常に大きな岩場だ。鎖場で私は足を滑らせ尻餅をつく。M君は、私が滑って転んだところを初めて見たという。



金峰山山頂から見た端牆山

大日小屋が見えたところで、登山道は大日小屋を通っていると思い下ったが、登山道は大日小屋に下らずにまっすぐ行くらしい。時間のロスをしてしまった。下ったところを登り返し、正しい登山道を下る。

ここから富士見平小屋は比較的近く感じた。富士見平小屋で全員一緒に少し休憩し、端牆山には先行組は少し早いペースで登っていく。一度、天鳥川に下る。帰りの登り返しがきついただろうと危惧される。

川を渡ってからは、岩場の多い道となる。鎖

場やはしごも出てくる。岩の多い道は、ルートファインディングを間違わないようにしないとイケない。しかし、赤テープや矢印はいろんなところにある。ちょっとやっかいなところを登らなければならないときもあった。



端牆山の登りで見つけた紅葉

登っていくと大きな岩峰が見える。大ヤスリ岩の下部の岸壁だろう。さらに登ると、岩場にいるパーティーが見えた。彼らがいる所は、大ヤスリ岩の台座と言われているところ。これから3ピッチ目の人口で登る垂壁に挑むようだ。



端牆山山頂にて

こちらは、一般道をフウフウいいながら登る。端牆山の肩と言えるような小川山林道への分岐で昼食タイムとする。先行組は4人。NさんとIさんがゆっくり登ってきているようだ。

ザックを置いて、山頂を往復する。鎖場とロープの張られたところを登ると、山頂が目の前に現れる。山頂からの展望は、金峰山に負けないくらい最高だった。ハヶ岳が間近に見え、南アルプス、中央アルプスも見えている。北側に目を転じると、男山、天狗山、そしてその奥に浅間山が見えている。五丈岩が目立つ金峰山は、

ここからはひときわ高く聳えて見える。今朝、山頂直下の小屋から来たと思うと、よく歩いたものだと思う。端牆山の岩峰群の左手には小川山も聳えている。



山頂から大ヤスリ岩を見下ろすと、さっきの2人パーティーのトップが3ピッチ目の垂壁を登っている。アブミを使っての人口登攀。フリークライミングは苦手だが、アブミなら私も得意だ。もしかしたら今でも登れるかも・・・と幻想の世界に迷い込む。そういえば、この山頂に立ったのは38年ぶり。その頃のことは全く覚えていないけど、山頂で撮った写真には大ヤスリ岩が写っていたことを思い出す。



名残惜しい山頂を後に下山にかかる。昼食を食べたところに、NさんとIさんがいた。ここでみんな一緒に写真を撮る。2人も空身で山頂に向かう。私たちは、下山にかかる。

下りはやはり早い。天鳥川を渡り、最後の登りをがんばる。そして山腹をトラバースし、富士見平小屋に到着。少し休憩して、先を急ぐ。樹林の切れたところから見えた端牆山は岩峰

を林立させる城砦のような山に見えた。



膝や右足の指が痛くなっていた私は、富士見平小屋からの下りで初めてダブルストックを使ってみた。使い方が分かっていないかも知れないが、膝への負担がいくらか軽減されたように感じた。これからは、時々お世話になることだろう。

端牆山荘に到着すると、程なくバスの案内が始まる。4人は、なんとか席を譲り合って座ることができた。バスの中では、いつしか眠りの世界に。韮崎駅が近づく頃、Iさんにメールで、無事に最終バスに乗ったか確認する。無事に乗ったというメールを見て一安心。

帰りのあずさは、偶然指定席に空席があり、新宿駅まで座って帰ることができた。今回もみなさまの協力に、ただただ感謝です。

記：網干



《参加者の感想》

2日間大変お世話になりました。金峰山、瑞牆山共に素晴らしい大展望。感動のあまり、涙が流れました。

さすがは奥秩父連峰の盟主です。あの素晴らしい景色は、言葉ではとても表すことができま

せん。いまだ感動冷めやらす。

2つの山からたっぷりいただいたパワーで、しばらくは元気に楽しく過ごせそうです。山小屋で一緒にいた方々と共に歌い、笑い、星空を仰いだ時間も素敵な時間となりました。そして感動の頂上。しかも2つ。どちらもてっぺんにたどり着き、素晴らしい景色を見ることができ大満足の2日間でした。

まさに、超気持ちいい？、なんもいえねえ？。そんな2日間となりました。またアルプの方々と山に行ける日を楽しみにしております。感謝、合掌。
記：H.Gさん

山頂からの素晴らしい眺め、澄んだ青空に色鮮やかな紅葉、夜には満天の星空、歩きごたえのある縦走と、山の魅力を存分に味わうことができた素晴らしい山行となりました。

特に山頂からの360度の大きなパノラマは、どれだけ見ても見飽きることのない素晴らしい眺めでした。地図で見る南アルプスや北アルプス、ハヶ岳の山々が、本当に地図のとおり目の前に広がっているというのは、何だか不思議な感動を覚えます。

また、ハヶ岳や北アルプスの稜線を目の前にして、まさにあの場所を3日かけて歩いたの

★笹尾根・丸山(11月19日)

参加者 会員(障害者3名、健常者5名)

前日の雨が上がり、すばらしい天気にも恵まれた。ただ、冬型気圧配置のため、北西風が強く、風は冷たい。

新宿駅に集まり、ホームに下りると、ホリデー快速が待っていた。3分ほどで出発する。武蔵五日市行き車両まで急いで行き、乗り込む。全員座ることができた。車窓からは真っ白な富士山も見えた。

だと思いを馳せたことは、正洋にとって面白い体験だったのではないかと思います。大変だった北アルプス縦走も、ここから見たら南北に連なるアルプス山脈のほんの小さな一部分に過ぎないのだなあということがよくわかります。人の小ささ、山の雄大さなど、いろいろなことを感じさせてくれたことでしょう。

もう一つ今回の山行で嬉しかったのは、正洋がのびのびと自分を出せていたように感じられたことです。アルプではみなさんが正洋の山への思いや頑張りを認めてほめてくださるので、それが正洋の大きな自信になっているような気がします。

アルプの皆様には本当に感謝してもきれないくらいの思いです。
記：M.Kさん

コースタイム

10/8 廻目平(12:00)…砂防堤(13:20)…金峰山小屋(15:40)

10/9 金峰山小屋(5:55)…金峰山(6:20-7:00)…金峰山小屋分岐(7:25)…大日岩(8:45-8:55)…富士見平小屋(9:55-10:10)…端牆山(12:05-12:30)…富士見平小屋(14:05-14:20)…端牆山荘(14:55)



武蔵五日市駅に着くと8時10分発のバスに並んでいる。我々は9時発のバスに乗る。登山計画では、8時22分発だったが、これは平

日だったようだ。

笛吹入口バス停に到着。自己紹介をして計画より35分遅れで出発する。まずは舗装道路歩き。民家の植えたイロハモミジなどがきれいに紅葉している。小さな山小屋を建てた人が、周囲の手入れをしている。

道標が分かりにくく、道標の方向に登ったら、そこは民家の敷地内。もう少し分かりやすく立ててほしいものだ。さらに行くと、道路が続いている。しかし、地図では、トラバース気味に尾根に上がるはず。Iさんがはっきりしない道標があったという。5分近く引き返してみる。



逆光に映える紅葉が美しい

この道標も地図とは違うように感じるが、道標に従って登山道を登ってみる。地図の道とは少し違っているようだが、丸山につながる尾根を登っているので間違いのないようだ。



伐採のおかげで展望が素晴らしい

樹林帯を登っていくと、杉の伐採地に出る。杉の稚樹が植えられてある。植林して1~2年程度経っているのだろうか？ 樹高が低いため、展望が利き、登るにつれて素晴らしい展望が広がるようになる。樹林帯に囲まれて展望の

ないのが普通の奥多摩の山で、得した気分だ。ただ、ここも5年もすれば杉が生長して展望はなくなるのだろう？ 最初で最後の風景になるかも知れない。



御前山(右)と鷹ノ巣山(左)を背に登る

ここは尾根の北側になるが、風がなくあたたかい。汗をかいたM君が着替えをする。周囲は、御前山、大岳山、浅間嶺などが見え、さらに登ると鷹ノ巣山も見えてきた。

再び植林帯に入り、さらに行くと雑木林になる。手前の尾根の向こうに三頭山も見えるようになる。丸山の山頂は近い。



丸山山頂にて

丸山の山頂からは、富士山が見えなかった。朝は電車の窓からはっきり見えたのに、今は雲に隠れてしまったようだ。今日は小春日和。日を受けて、風がないと暖かい。ゆっくり昼食を摂ることができた。

丸山を後に、笹尾根を縦走して土俵岳に向かう。少しM君の調子が悪くなる時があったが、みんなが交代で手をつないで歩いてくれて、順調に進んでいく。

小ゆずり峠を過ぎ、尾根を歩いていると、葉

を落とした木々の向こうに、きれいな傾斜の山腹が見える。山頂を雲に隠しているが、あの形は富士山だ。山頂が見えなくても、富士山を探し出す喜びがあるので、見つかるとうれしいものだ。



土俵岳からは御前山や大岳山が見える。紅葉したカラマツも枝を伸ばしている。土俵岳から、まだ笹尾根は続く。日原峠を過ぎ、まだ紅葉した葉を付ける木々を楽しみながら、いくつかのアップダウンを越えていく。

東屋のある浅間峠で最後の休憩だ。ここからは、尾根をトラバース気味に下る。足を踏み外さないように注意が必要。山道を下っていくと、バイクの音がする。車道に出て、南秋川を渡るとすぐに上川乗のバス停だった。35分遅れで笛吹入口のバス停を出発したが、上川乗バス停到着は、計画通りの時間となる。今日は良いペースで歩けた。バスが来るまで1時間ほど。待ち時間もみんな楽しんで、バスに乗り込んだ。

記：網干

※雨のため東吾妻山、登山知識及び技術向上コース（大源太山・朝日岳）、高尾山・丸山が、参加者不足のため技術講習会（日和田山）が中止となりました。

ハイキング報告

★第50回ふれあいハイキング（岩殿観音）（11月12日）

参加者 会員(障害者3名、健常者6名)



《参加者の感想》

素晴らしい1日でした。日本の美しい秋を満喫させていただきました。植林が伐採されて見晴らしの良い尾根からは奥多摩の山々が一望！落葉樹の森は、遠目からも、その中を歩くときも、言葉では表せない美しい彩りがありました。雲の合間から見える富士山のシルエットも思いの外、近くにあって、テンションが上がりました♪アップされる写真はどれも絵葉書になるでしょう。登山者も少なく、積もった落ち葉のフカフカな登山道も楽しめました。太陽の暖かさを感じての昼食、息子はカップうどんが美味しかったと話していました。贅沢な1日をありがとうございました。 記：F.Iさん

コースタイム

笛吹入口(9:55)…丸山(11:50-12:20)…土俵岳(13:15-13:25)…浅間峠(14:25-14:35)…上川乗(15:30)

前日の雨も上がり、今日は素晴らしい好天に恵まれた。寒冷前線が通過した後なので、風が

強くやや寒い。それでも、歩きはじめれば身体も温まるだろう。今日は、ISさん親子も久しぶりの参加となる。

高坂駅は、関東の駅百選に選ばれている駅だ。選ばれたのは、駅舎の形がしゃれているからだろう。駅を後に、舗装道路を歩く。歩道には、銅像のモニュメントが一定の間隔で飾られている。

高速道路を越え、高坂CCの横を通るところが、ガイドブックからは分かりにくかったが、IさんやISさんと地図を確認しながら歩く。協力し合って、地図で道を探しながら歩くことも、とても良いのではないだろうか？



カラスウリの実がたくさんぶら下がっているとところを過ぎると、弁天沼は近い。弁天沼は、坂上田村麻呂の悪龍退治の伝説があるらしい。蛙が住みつかないことから「鳴かすの池」という別名もあるらしい。



弁天沼から道路を渡ると、そこは岩殿観音への参道となる。参道は、かつての宿場町のような。家の屋号ではないかと思われる名前を書い

た看板が、それぞれの家に表札のように掛けられている。

参道を通り、仁王門への階段を上がり、さらに急な階段を登ると、岩殿観音正法寺に着く。立派な観音堂の横の岸壁には、石仏が並んでいる。八十八体以上あり、これを拜むと四国巡礼と同じご利益があるらしい。また、麓を見下ろすところには、茅ぶき屋根の鐘楼がある。吊された銅鐘は、1332年に作られたものらしい。



岩殿観音から階段を登って、さらに道路を渡り物見山に登る。物見山からの展望はなかなか良い。筑波山や日光方面と思われる山々も見えた。ここで昼食タイムを取る。

次は地球観測センターに向かう。この道路も分かりにくかった。ガイドブックとスマホで確認した現在位置から、向かう道を確認して行く。道を間違っても、みんなで考えて修正する。市民の森遊歩道を歩くが、ここは雑木林に囲まれて、とても雰囲気が良い。M君は、Kさんと手をつないで歩いている。今回、M君はいろいろな人と手をつないで歩いたが、Kさんが一番多かったのではないだろうか？

地球観測センターに入り、パラボラアンテナを見たり、地球のできた様子や、これまでに打ち上げた衛星の一覧などもあり、いろいろ楽しめる。

次は、笛吹峠に向かう。乾燥したたんぼが広がり、遠くには奥武蔵の山々が見えている。道なりに進んだが、地図の道とはやや違う感じ。山の中より、里の方が読図は難しい。それでも、

笛吹峠への道を見つけ、緩やかに登っていく。

笛吹峠には東屋があり、そこで休憩する。あとは、武蔵嵐山駅まで休憩なしで行くことにする。車道沿いに桜の木が植えられている。桜の咲く季節にはすばらしい光景に出会えるだろう。



農道を歩いて笛吹峠に向かう

長い車道歩きをがんばっていると、開けたところに出る。たんぼや原っぱの向こうに武甲山が見えている。都幾川沿いには桜並木が続いている。橋の上からは澄んだ水が流れる都幾川とその向こうに見える武甲山がすばらしい風景を作り出している。

地図を頼りに舗装道路をぐんぐん歩く。先頭を歩くM君とKさん、それに私で、線路を越えてコンビニ立ち寄る。飲み物を仕入れて武蔵嵐山駅に到着。舗装道路の上は足にはきついけど、全員が無事に長いコースを歩ききることができた。お疲れ様でした。 記：網干

個人山行報告

★高尾山・城山(11月3日)

参加者 会員(障害者1名、健常者6名)

10月28日に計画した高尾山が雨の予報だったため、中止にして、今日個人山行で行うことにした。晴れの特異日である今日も、数日

《参加者の感想》

半年ぶりでしたので、足慣らしにはちょうど良いと思ってのハイキング参加でした。秋の里山風景がとっても綺麗でした。紅葉だけでなく、からすうりや柿の赤。すすきも日を浴びて黄色に輝き、高い青い空とのコントラストも印象的でした。アップされる写真もステキなものばかりだと思います。途中に立ち寄った地球観測所も想像以上に興味深かったです。そして何より、仲間に迎えていただいたの1日、息子は病気回復に大きくつながったように感じます。ありがとうございました。

記：F.Iさん



都幾川の流れと遠く武甲山を望む

コースタイム

高坂駅(10:05)…弁天沼(10:45-10:55)…岩殿観音(11:10-11:20)…物見山(11:30-11:55)…地球観測センター(12:40-13:15)…笛吹峠(13:55-14:10)…武蔵嵐山駅(15:10)

前まで雨の予報。気象庁、日本気象協会、ウエザーニューズの予報を見比べて、雨が降ったとしても一時的なものだと思い始めたとき、気象庁の予報が2日前になって変わってきた。降っても朝のうちだけで、千葉県と東京都区部の範囲で済みそうだ。前日の朝、決行することをみなさんに伝える。

前日の夜から八千代市は雨。明け方まで降っていたようだ。家を出る頃には雨は止み、青空も覗いている。新宿から京王線に乗る頃には、快晴になっていた。

石巻から新幹線に乗り、日帰りの計画で来たGさん。「ムササビ君、必ず出てきてください」と心の中で祈る。



高尾駅から午後最初のバスに乗る。こんな時間から山に登る人はいないと思っただ、バスは立っている人が何人もいた。日影で多くの人が下りる。私たちは終点の小仏で下りる。自己紹介をして出発。舗装道路をまだサポート経験のないTさんにさせていただく。

車道から広い登山道になり、さらに登っていくと小仏峠に着く。東京都心が見える。新宿の高層ビル群は見えるが、スカイツリーはかすんでいて見えなかった。しかし帰ってきて写真を見たら、ビル群の後に写っていた。



尾根の途中で富士山や丹沢の大室山が見える。さらに登ると城山に到着。植えられたイロハモミジは、きれいに紅葉している。今日のは

んびり個人山行。茶屋でビールや酎ハイを買って一休み。猫がニャーと挨拶に来る。

一丁平には、2本のアカマツが目立っていた。富士山や丹沢方面の展望がすばらしい。午後の日差しを受けて、ススキも輝いている。

一丁平から一旦下り、また登っていく。トイレを過ぎるとモミジ台、ここも展望が良い。最後の階段をがんばると高尾山の山頂に着く。もう16時なのに、観光客であふれている。みなさんライトを持っているのだろうか、心配になる。



日の入りは16時45分頃。日の入りを見てから薬王院に行くことにする。高尾山の山頂で日の入りを見るのは初めて。富士山と沈みゆく太陽の光景がすばらしい。



日が沈んだところで、薬王院に向かう。まだ登ってくる人たちも大勢いる。薬王院のムササビが住む天井裏の穴を探す。一番手前の穴が近くて良いのだが、そこにムササビがいるのだろうか？ 先に来て上を見ていた二人連れがいたので、ムササビの出てくる穴を聞こうとした

が、つれない様子で、答えてはもらえない。2人の世界を邪魔したこちらが悪いのだろう。



高尾山展望台からの夜景

すると、Oさんがネズミのような生き物が穴から出て天井に上がったという。それは見られなかった。今度は、Iさんが足音がすると言う。これはかなり可能性が出てきたなと感じる。赤いセロファンを貼ったライトを穴に向ける。おお、ムササビが顔を出してくれた。



軒下から顔を出すムササビ
(Gさん撮影)

私は懐中電灯をOさんに持ってもらい、ビデオカメラを構える。写真を撮りたいが、もう2本腕が必要なので、それは無理。今回はビデオに専念す

ることにする。すると、ムササビが穴から顔を出す。これからもまだ時間がかかると思っていたが、30秒ほどで、飛び出してきた。一瞬の間に林に消えていった。

穴に1頭だけで住んでいるはずはないと思い、次の1頭を待ったが、出てこなかった。1頭見られただけでも満足なので、引き上げることにする。

一号路方面に向けて歩いていると、ムササビが右から左へ30mほど飛んでいった。30mも1秒ほどの時間しかかからない。一瞬だった。キュルキュルというような音も聞こえた。視覚障害のあるFさんは、姿を見られなかったが、この音を聞くことができて良かった。飛ぶときに音がすることも初めて知った。



飛び出したムササビ(ビデオから抽出)

次は、東京の夜景を楽しむ。十一丁目から夜景が見えた。さらに展望台があったので、上がってみる。ここはビアガーデンの場所だった。確かに展望は素晴らしい。遠くで花火も上がっていた。

周囲が暗く、登山道の方向がよく分からなかったが、Iさんがいろいろ調べて下山する1号路を確認してくれた。

ここからは、舗装された長い下り。腿が痛くなってくる。ケーブルカーには大勢の人たちが整理券を持って待っていたようだ。高尾山は夜も賑やかなのだと初めて知った。

日の入りや夜景、富士山、そしてムササビといろいろ楽しめた高尾山でした。お疲れ様でした。
記：網干

コースタイム

小仏(12:40)…小仏峠(13:30-13:45)…城山(14:15-14:55)…高尾山(16:00-16:45)…薬王院(17:00-17:35)…高尾山口(18:40)

各種連絡事項

▲臨時総会の開催予定

来年度の事業計画を決める臨時総会を以下の通り予定しています。

議案書と詳細は追ってお知らせしますので、ぜひみなさまのご参加をお願いいたします。

日時：平成29年1月28日（日）
14:00～15:00

場所：八千代台公民館 研修室

△活動紹介映写会開催

活動紹介映写会を以下の通り予定していますが、まだ場所の確保ができるかどうか確定していませんので、確定したら改めてお知らせします。

日時：平成29年3月18日（日）
14:00～16:00

場所：八千代市総合生涯学習プラザ
多目的ホール

会員情報

◎新入会員のお知らせ

9月以降、入会、退会ともありませんでした。

編集後記

・理事長のつぶやき

20代の頃は、山の本をたくさん読んでいました。「風雪のピバーク(松濤明)」「単独行(加藤文太郎)」「山靴の音(芳野満彦)」さらには「処女峰アンナプルナ(人類初の8,000m峰登頂)」「大岸壁の50年(リカルド・カシン)」等々100冊くらいは読んだのではないかと思います。そんな中で、冬の谷川岳一の倉沢衝立岩を単独登攀して墜落死した山学同志会の今野和義氏の遺稿集「垂直を駆ける」は、すごく心に残っています。心に残った言葉を蛍光ペンでマークしていました。

「登山それは行動の美学」「常に真摯であり、真実を見つめ、そして真実を求めたい」「ワルテル・ボナッティの言葉・登山とは、何よりも苦勞することを学ぶことだ」さらに「山学同志会は、ハイキングクラブではないのだから、単に自然に憧れるだけでなく、人間の英知では計

り知れない大自然を道場として、心身を鍛えることを目的とする仲間の集まりでありたい」ちょっと激しいですが「理論、世間、そんなものはくそくらえだ。それはその場限りの個人と個人の争いで、しかも、その場で勝てばいいのだ。ほらの言えるものが勝を制するのだ。そんなものにぼくは興味がない」「生と死の極限をきわめることほど美しい行為はない」

私もまだ若かったので、こんな言葉に胸を踊らせ、山に向かっていったように思います。今野氏の足下にも及ばないことしかできなかったのですが、気持ちだけは持っていたいなと思っていました。

今は年を取ってしまって、そんなことを思うこともなくなりましたが、若いときの思いを心の片隅に、ほんの少しでも残しておきたいなと思っているこの頃です。

- 次回発行予定は、3月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ！！

